

# 令和4年度 府立北稜高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>本校の教育テーマ「国際教育」「環境教育」「表現活動」を相互に関連づけて推進し、グローバルな視野と主体的に生きる力を有する生徒を育成する</p>	<p><b>(1)北稜の魅力伸長</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本校の教育の柱の一つである「環境教育」では、第1学年生徒を対象とした表現活動での取組等、全体化に成功した。また、KESステップ1の更新に生徒環境委員会も関わる等、生徒の活動への参画を進めることができた。</li> <li>「国際教育」については、オンラインの交流等、コロナ禍の国際交流を進めることができた。今後は、ハイブリッドな国際交流の形態を研究することにより、コロナ以前よりも豊かで多様な国際交流を目指したい。また、重要な国際交流の手段としての語学力の育成について力を入れたい。</li> <li>生徒会活動や、総合的な探究の時間、部活動を中心に、地域活性化への生徒参画を進めることができた。今後は、より全校的な取組とすることが課題である。</li> <li>コロナ禍での制限はあったが、生徒会や生徒委員会が主体性を発揮し、学校行事を活性化することができた。今後はアフターコロナの新しい学校行事を、生徒起点で作り上げていきたい。</li> <li>部活動では、体育系、文化系ともに生徒にとって充実感のある取組が展開でき、成果も上がっている。今後も、多様な生徒がそれぞれの力を発揮し、活躍できる場としての機能を充実させていきたい。</li> </ul> <p><b>(2)北稜学習改革</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板の活用方法の研修、BYODの研究、学習プラットフォームの活用等、学びのICT化について組織的に進めることができた。今後は、これらの成果を、本校としての「主体的・対話的で深い学び」「個別最適化した学び」「協働的な学び」の構築につなげていきたい。</li> <li>本校の強みである丁寧な進路指導を一層進めることができた。一方で、生徒・保護者に対する体系的な情報提供力には課題が残った。ICTを活用しながら、よりタイムリーな情報提供を進めていきたい。</li> <li>大学入試システムの変化と進路希望の多様化への対応を進めてきた。今後も、従来の進路指導の概念を超えた新しい指導のあり方を考えていく必要がある。</li> </ul> <p><b>(3)北稜の魅力発信</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種広報媒体の見直しやSNSの活用を進め、本校の魅力を中学生起点で効果的に発信することができた。今後は、本校の強みである、中学生の多様なニーズに対応できる豊かな特色を持つ教育活動について、より具体的に発信していきたい。</li> </ul> <p><b>(4)北稜教職員体制</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>北稜魅力推進プロジェクトチームを立ち上げ、生徒、地域(中学生)、教職員にとって魅力ある学校創りに向けてさまざまな提案をすることができた。特に、「地域の課題解決力の育成」を切り口に学校としての力をつけていくという提案については、年度を越えて継続的に取り組んでいきたい。</li> <li>学校ICT化として、校務と学びのICT化を進めることができた。今後は、校内体制を整え、より安定した学校ICT化を目指したい。</li> </ul>	<p><b>(1)北稜の魅力伸長</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育の柱である「国際教育」「環境教育」「表現活動」が、「生徒起点」で、より充実感のあるものとなるように見直しを進める。「国際教育」については、「ハイブリッドな国際交流」の充実と「北稜ならではの語学力育成法の構築」を行う。「環境教育」については、KES認定20年の節目の年を迎えることから、次の10年を見通した計画策定を行う。特に、生徒の環境問題について行動が、個を超えて社会や世界につながり、よりよい世界を創造する行動となることを目指した教育体系を作りあげる。「表現活動」については、「コミュニケーション能力を伸長させる教育活動」としての位置づけを再確認し、あらゆる教育活動の中で生徒の能力の伸長に向けた取組を行っていく。特に、総合的な探究の時間の中での活動を充実させる。</li> <li>昨年度のプロジェクトチームから提案された「地域の課題解決力、京都No.1校」を実現すべく、生徒会活動、委員会活動、部活動、総合的な探究の時間等、学校生活のさまざまな場面で地域に開かれた教育活動を展開していく。これら地域をフィールドとした課題解決力の伸長を通してグローバルな問題に挑戦する力を育むという、「北稜人材育成ストーリー」の構築を目指す。</li> <li>特に本校生にとって学校生活を充実させる大切なステージとなっている学校行事について、「生徒起点」で不断の見直しを進め、生徒の主体的な活動の力を最大限に発揮できる場としていく。</li> <li>生徒会、生徒委員会の活性化を通して、生徒が主体性を発揮し、挑戦する場としての学校の機能を、より一層強化させる。</li> <li>本校の強みである部活動について、生徒の主体性の育成と、多様な才能を発揮する挑戦の場としての機能充実を一層進めて行く。</li> <li>穏やかで落ち着いた生徒が多いという「北稜ならではの魅力」を学校の強みとして再認識し、落ち着いた品格のある学校を目指していく。</li> </ul> <p><b>(2)北稜学習改革</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領の趣旨の実現を通して、「主体的・対話的で深い学び」への授業改革を組織的に行う。</li> <li>観点別評価の研究と実践を通して、「生徒起点」の学習改革を進めていく。</li> <li>学びにおけるICTの利活用を通して、「協働的な学び」と「個別最適化した学び」の実現をめざす。特に、一人一台端末による学習活動(BYOD)について、家庭学習も含め生徒の学びの全体像を見渡した「生徒起点」での活用を目指していく。</li> <li>特別支援の観点をもって学習活動を見直し、また、教育的視点の重点をシンパシーからエンパシーへ移行させることを通して、多様な学力、学習経験、学習習慣を持つ生徒一人一人が北稜で「学びの喜び」を経験し、生涯を通して自立した学習者となるよう、学びの体系の再構築を行う。</li> <li>従来の進路指導の既成概念を超えて、豊かな学習「体験」を通して学びの「方法」を身につけ、自律的に学習する力を育てる、「北稜ならではの進路指導の体系」を構築する。また、生徒が自らの学力の伸長を確実に実感することのできる、受験勉強の仕組を作り上げ、モチベーションを高め、自らの夢を見いだし、高みに挑戦する力を育てていく。</li> </ul> <p><b>(3)北稜の魅力発信</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学生の多様なニーズに対応できるという、本校の豊かな特色ある教育活動について、より幅広い中学生に情報を届けることのできる手段を検討していく。</li> <li>中学生やその保護者に限らず、本校保護者、地域の方々へより広く本校の教育活動を発信することで、地域に広く愛される学校を目指していく。</li> </ul> <p><b>(4)北稜教職員体制</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「北稜学びのデザインワーキンググループ」を立ち上げ、「入学から卒業までの北稜ならではの学びの体系」検討し、実践に移していく。</li> <li>学校ICT・ネットワーク担当チームの機能を強化し、校務ICT化・学校ICT化を進めていく。</li> <li>総合的な探究の時間、地域連携のそれぞれに特設担当主任を設け、持続可能な組織的な取組を計画、実践していく。</li> <li>教職員が、特別支援の観点、より深く鋭い人権感覚を身につけ、教育活動の充実にあたることのできるよう、校内研修体制を整えていく。</li> </ul>

## 令和4年度 府立北稜高等学校 学校経営計画(スクールのマネジメントプラン) (計画段階)

評価領域 (分掌領域)	重点目標	具体的方策
教務部	学びにおけるICTの利活用を通して、「協働的な学び」と「個別最適化した学び」の実現をめざす。	一人一台端末による学習(BYOD)に向け、「ロイロノート」の整備・活用による生徒起点の学習を促す。
		校務・学校ICT化に向けた本校の現状・課題を整理し、持続可能な体制を整える。
教育推進部	北稜の魅力を深め、発信する。	長年の国際理解教育と各国交流の成果と課題を見直し、コロナ禍での新しい国際交流の形を形成していく。また、これまで交流していた学校との連携をとると共に、生徒の国際感覚の醸成を目指す。
		これまでの環境保護活動の成果と課題を整理し、教職員の意見集約を経て、新しい今後の方向性を示す。
生徒指導部	生徒会、生徒委員会の活性化	「地域の課題解決力、京都No1校」を目指し校内での広報活動や、実践、発表に取り組む。
		「北稜祭」「体育祭」などの学校行事において生徒が主体的に活動し、学校生活をより充実させる取り組みにする。
	部活動の機能充実	部活動での活躍を始め、取り組みや成果を発表する場を定期的に用意する。
		キャプテン会議や部集会を定期的に開催し、生徒が主体的に部活動に取り組める内容を積極的にすすめる。
進路指導部	「自律的・主体的な学び」を目指した進路指導の体系を構築する。	模擬試験やスタディサプリ等を活用した進路補習を実践し、主体的に学習に取り組める環境を整える。
		入試システムや模試の申し込み、進路希望調査などの進路情報をスタディサプリ等を利用して生徒、保護者に発信する。
保健部	特別支援教育の観点を持った適切な生徒支援に努める。	支援が必要と思われる生徒への対応を通して、校内の教育活動全体を特別支援の観点で見直すターミナルの役割を担う。
		教職員研修を実施し、ICTを活用した授業のUD化を進める。
図書部	生徒起点で魅力ある図書館づくりを行う	定期的な図書紹介や企画展示・教科発表展示を通じて来館者増に努める。端末を利用した教科との連携も意識して取り組む。
		図書委員会として校内企画イベントを実施するだけでなく市内・乙訓地域の交流会を通じて得た刺激やノウハウを現場で活かせるように努める。
事務部	活用しやすく魅力ある学校環境整備を行う	特色ある教育活動をさらに充実できるように校内の情報共有を強化しながら「生徒起点」も含めた様々な視点で学校環境の整備に努め、校内施設全体について更なる改善・整備を図る。
第1学年部	学びの喜びを経験し、自立した学習者になるための素地を養う	生徒がICTを利用する回数を増やして、生徒が自ら学び自ら考える習慣や計画的に学習する習慣をつけさせる。
	生徒の主体性を育成し、多様な才能を発揮させる	部活動や学校行事に積極的に参加させる。学校行事や委員会では生徒主体で活動する場を増やす。
第2学年部	1年時に目標とした基本的な生活習慣をさらに充実させ、規範意識を高めて、研修旅行を活用し、中心学年として部活動を含め、高校生活を充実させる。	コロナ禍で制限もあるが、修学旅行を中心とした学校行事にも主体的に取り組ませる。特に、新たな取り組みとして、研修旅行を遠足などの学校行事に連動させ、クラスを超えた学年としての取り組みを充実させる。
		高校の中心学年として、進路実現に向けた基礎学力の定着や応用力の伸長はもちろん、充実した高校生活を送り達成感を得られるように、部活動や生徒会活動、委員会活動にも積極的に参加させる。
第3学年部	生徒自身が充実した学校生活を送り、進路実現に向け主体的に行動できるようサポートする。	学校行事における生徒自身の満足度を高めつつ、最高学年としての完成度の高い活動ができるよう支援し、充実した学校生活を送らせる。
		個々の生徒にあわせた適切な指導助言を行い、多様な生徒それぞれの進路実現が達成できるようにする。

## 令和4年度 府立北稜高等学校 学校経営計画(スクールのマネジメントプラン) (計画段階)

評価領域 (分掌領域)	重点目標	具体的方策
国語科	学びにおけるICTの利活用を通して、「協働的な学び」と「個別最適化した学び」を推進する。	常にBYODを意識し、授業の中でICTを効果的に取り入れていく。ロイロノートなどを利用した生徒の協働的な学びにより、生徒が主体的に参加できる授業形態をさらに工夫する。また、週末課題等でスタディサプリを活用し、生徒一人一人の躓きを解消させ、基礎学力の向上を目指す。
	教育活動の柱である「表現活動」を「生徒起点」でより充実感のあるものにする。	小論文模試を通して文章表現の基礎力を養うことはもちろん、今年度は理科と連携し、様々な探究活動を通じて得られた成果をプレゼンテーションするなどして豊かな表現力を育成する。
地歴公民科	地域を起点としてグローバルな視野を養う学びを、科目の特性を活かして展開する。	グローバルな地理的・歴史的認識の下、同時代の世界、周辺諸国の動向や関わりに注目しながらの授業展開し、地域社会との関わりの中で、主権者意識を育み、SDGsの目標達成をめざす教育指導を実践する。
	個別最適化を目指す教材と指導方法の開発に取り組み、課題解決力の向上を推進する。	生徒起点で教材開発や指導方法(視聴覚教材・ICT活用)を開発し推進する。また、地理総合、公共及び「総合的な探究の時間」において課題解決力を向上させる取組を推進する。
数学科	新1年生のBYODに絡め、教科全体でのICT活用促進を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロイロノートを中心に、課題配信、回収機能を用いた授業を展開し、視覚教材も用いながら生徒の理解度を深める授業を実施する。</li> <li>・課題をタブレットを通じて提出させることで、生徒と教師間での課題の共有をスムーズにし、未提出生徒への声掛けを的確に行う一助とする。</li> </ul>
	新しい大学入試に対応できる力を育てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考力・表現力・判断力を伸ばす授業展開を教科会や模擬授業を通して研究し、公開授業および研究授業において実践する。</li> <li>・アドバンスクラスをターゲットに、模擬試験の過去問対策を重点的に行い、入試問題へのアプローチを進める。</li> </ul>
理科	自然現象への興味・関心を高め、引きつける授業の実践。	教科書の内容を踏まえ、身近な自然現象や最新の研究などをできるだけ多く例示、紹介して、学習内容が生徒自身に密接に関わっていることを示し、実験、演示、模型、ICT機器等を有効に活用し「引きつける」授業を行う。
	学習習慣の確立と個に応じた指導の充実。	柱となる重要なポイントを明確にしながメリハリのついた指導を心がけ、生徒が効率的に学習に取り組めるようにする。学習習慣の確立のため、課題プリント、実験・実習レポート等を定期的に提出させ、小テスト等で達成度を把握すると同時に、スタディサプリを有効に活用して個に応じた学力伸長を図る。
保健体育科	「表現活動」に重点をおき生徒同士で課題解決促し学習意欲を高める。	学習カード(ロイロノート)やグループワークで自己の表現力を磨けるよう伝え方、考え方のポイントをアドバイスする。
		ICT機器の活用による運動局面における「外在的フィードバック」及び、生徒自身における「内在的フィードバック」を自己表現し、生徒同士で問題解決できるよう促す。
芸術科	芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。	生徒のレポートやアンケートを用いて、目標の設定と振り返りをさせることにより、芸術における諸能力が高まったかどうかを評価させる。
		主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICTやアクティブラーニングを活用した授業を展開する。
英語科	①新学習指導要領に基づいた指導と評価方法の構築 ②「国際理解教育」の中心的な教科として、生徒の学習意欲と学力の向上	①指導方法や評価方法の構築に向けて、教員間で定期的に意見交換を行い、共通理解を図る。
		②英語検定取得者を増やす。特に、2年終了時までには、アドバンスコースの生徒は準2級、英語コースの生徒は2級取得を目指すよう指導を徹底する。 GTECについては、意欲・目標を持って取り組ませ、スコアアップを目指す。2年時には検定版を実施して、オフィシャルスコアを取得させる。
家庭科	自立と共生について様々な視点から考え、行動できる力を養う。	コロナ禍で厳しい現状ではあるが、実験・実習、振り返りレポートなどを活用した主体的な学習を例年以上にとりいれる。
		ICTで視聴覚教材を利用することにより、様々な状況の人々と共に生きている現実を共有する。
情報科	実生活において情報技術を正しく効率的に利用できることを目標とする。	基本的なPC利用・キーボード利用の修得を目指す。 情報技術の進歩を体験しながら、ネットワークを意識した利用方法が身につくよう指導する。